

段ボール 入れ子

対象幼児児童生徒

・言語でのルールの理解は難しいが、視覚的にルールや活動内容の理解が得意な子を想定。物の大小について、言語で「大きいのはどっち?」と問われていることが分からなくても、この活動で試行錯誤なしに完成することで大小の理解を把握することができることもある。(小学部の生活の授業で活用)



ポイント!!

ねらい

・入れ子にすることが分かり、大きさや色を見分けて、大きい順に重ねることができる。
・両手で持って運び、上肢を使って微調整しながら重ねることができる。

上肢の操作が難しい子どもでも、何とか入るくらいのお遊びがあり、且つ、入れ子の順番の間違いが気づけるくらいのぴったり感があるように、段ボールの会社と綿密な相談の上、オーダーして作りました。

教材の使い方・指導方法

- ・個に応じて、課題や支援を自由に変えて、競争活動ができる。(白・赤・青・黄の4色)
- ①段ボールをもって運び、教員と一緒に重ね、行って帰ってを繰り返す活動ができる。
- ②大きい順番に並べてある、あるいは先生から手渡された、段ボールを運んで、上肢で微調整して、入れ子にすることができる。
- ③色や大きさ、段ボールの向きをいろいろにして、見比べて判断したり、試行錯誤して重ねたりして、入れ子にすることができる。